

問1 15世紀の琉球王国が行った交易の仕組みについて、当時の物流の状況を具体的に説明したものととして、正しいものを選びなさい。（2019年 長野県公立入試 類似）

- 中国から輸入した生糸や陶磁器を日本や東南アジアに売り、東南アジアから輸入した象牙や香料を中国や日本に売る役割を果たした。
- 日本国内で大量生産された生糸を、琉球を経由して直接中国へ輸出するルートを独占し、中国からの支払いを銀で受け取っていた。
- 東南アジア諸国との取引を拒絶し、中国から輸入した陶磁器を自国の王宮でのみ使用することを目的とした限定的な貿易を行っていた。
- 日本との直接取引のみに依存しており、東南アジアの産物はすべて日本国内の商人が琉球に持ち込んだものだけを買取っていた。

問2 室町時代の足利義政が興した東山文化において、現在の和室の原型とされる住宅様式が確立されました。銀閣寺（慈照寺）にある東求堂の内部に見られる、畳を敷き詰め、床の間や棚、障子などを備えた建築様式を何と呼びますか。（2025年 岡山公立入試 類似）

- 寝殿造
- 書院造
- 校倉造
- 合掌造

問3 室町時代に足利義満が始めた明との貿易において、わざわざ「勘合」と呼ばれる札を半分に分けて照らし合わせる方法が採用された目的として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 大阪公立入試 類似）

- 倭寇と呼ばれる海賊による密貿易を防ぎ、正式な貿易船であることを証明するため
- 朝鮮半島を経由せずに、直接中国の港へ入港する許可を個別に得るため
- 幕府が独占していた金や銀の輸出量を、明の役人と正確に照合するため
- 明の皇帝から授かった日本国王の称号が、世襲であることを確認するため

問4 室町時代、足利義満が中国の明と始めた貿易において、正式な貿易船と海賊である倭寇を区別するために使用された、割印を合わせた証明書を何といいますか。（2018年 岐阜公立入試 類似）

- 勘合
- 朱印状
- 御朱印状
- 割符

問5 室町時代、京都や奈良などの都市部では商工業が発達し、金融業を営む勢力が大きな経済力を持つようになりました。幕府に税を納める見返りに、質を取って金を貸し付けるなどの高利貸しを営んでいた者たちの組み合わせとして適切なものはどれですか。（2019年 広島公立入試 類似）

- 土倉・酒屋
- 両替商・蔵元
- 問屋・株仲間
- 地主・小作人

問6 室町時代の文化において、能と密接に関わりながら発展した「狂言」の性質について説明したものととして、最も適切なものはどれかを選びなさい。（2021年 宮城県公立入試 類似）

- 当時の民衆の生活などをユーモラスに描いたせりふ劇である。
- 江戸時代の庶民の間で流行した、社会を風刺する短歌である。
- 三味線の伴奏に合わせて人形を操る、江戸時代に発達した演劇である。
- 多色刷りの版画であり、江戸時代の風俗を鮮やかに描き出したものである。

問7 1428年に近江国の運送業者らが中心となって起こした「正長の土一揆」に関する説明として、当時の社会状況や背景を正しく述べているものはどれですか。（2016年 大阪公立入試 類似）

- 農民たちが『徳政』を求めて蜂起し、京都の質屋や酒屋を襲って借金の証文を破棄させた。
- 幕府が武士の生活を救済するために『棄捐令』を出し、商人からの借金をすべて強制的に帳消しにした。
- 元寇による恩賞不足に不満を持った御家人が、幕府に対して失った領地の無償返還を求めて決起した。
- 飢饉によって困窮した農民が、江戸幕府に対して年貢の減免と救済を求める「代表越訴」を行った。

問8 室町時代に足利義政が慈照寺（銀閣）の境内に建立した「東求堂同仁斎（とうぐどうどうじんさい）」は、現代の和風建築の源流とされています。畳を敷き詰め、障子や床の間、違棚などを備えたこの建築様式の名称として正しいものを、次から選びなさい。（2024年 岐阜公立入試 類似）

- 寝殿造
- 書院造
- 校倉造
- 唐造

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中国から輸入した生糸や陶磁器を日本や東南アジアに売り、東南アジアから輸入した象牙や香料を中国や日本に売る役割を果たした。	琉球王国は、中国から手に入れた高度な工芸品や繊維製品を日本や東南アジアへ運び、逆に熱帯地方の貴重な産物を中国や日本へと供給していました。このように、特定の2国間だけでなく、中国・日本・東南アジアの複数の地域を橋渡しする多角的なネットワークを構築していたことが、琉球の繁栄の鍵となりました。
問2	答え 2 書院造	足利義政が築いた東山文化を代表する銀閣寺（慈照寺）の東求堂同仁齋（とうぐどうどうじんさい）には、四畳半の畳の敷き詰め、床の間、棚、付書院といった現代の和室に共通する特徴が備わっています。これ以前の平安時代の寝殿造は、板張りの床に座る場所だけ畳を置くスタイルであり、書院造への変化は日本人の住生活の大きな転換点となりました。
問3	答え 1 倭寇と呼ばれる海賊による密貿易を防ぎ、正式な貿易船であることを証明するため	当時、東アジアの沿岸部では倭寇（前期倭寇）と呼ばれる海賊が活動し、略奪や密貿易を行っていました。明は倭寇の取り締まりを強く求めていたため、幕府は「勘合」という割印のある札を持参させ、それを持たない海賊船と正式な遣明船を厳格に区別する仕組みを整えました。
問4	答え 1 勘合	明が倭寇の取り締まりを強く求めたことを背景に、室町幕府は正式な使節であることを証明するために、明から与えられた「勘合（勘合符）」を使用しました。この証明書を、明側が保管する帳簿と照らし合わせて確認することで、海賊との識別を行いました。
問5	答え 1 土倉・酒屋	室町時代には貨幣経済の浸透に伴い、質屋のような業務を行う「土倉」や、酒造業を営みながら豊富な資金を貸し付ける「酒屋」といった金融業者が台頭しました。室町幕府は彼らに「倉役」や「酒屋役」という税を課すことで、幕府の重要な財源としました。
問6	答え 1 当時の民衆の生活などをユーモラスに描いたせりふ劇である。	狂言は、神話や悲劇を題材とすることが多い能とは対照的に、名主と家来の関係など、当時の身近な人間関係や日常の失敗談を「笑い」として表現しました。室町時代の文化が、貴族や武士の文化だけでなく、民衆のエネルギーを反映していたことを示す代表的な事例です。
問7	答え 1 農民たちが『徳政』を求めて蜂起し、京都の質屋や酒屋を襲って借金の証文を破棄させた。	正長の土一揆は、日本で最初の大規模な土一揆とされます。近江の馬借（運送業者）らが「徳政」をスローガンに掲げて蜂起し、京都の金融業者である酒屋や質屋、土倉を襲撃しました。彼らは実力で借金の証文を奪い取ったり破棄したりすることで、事実上の債務消滅を狙い、幕府に法令の発布を迫りました。他の選択肢は、鎌倉時代の永仁の徳政令や、江戸時代の政策・運動の説明です。
問8	答え 2 書院造	室町幕府の8代将軍・足利義政が営んだ東山文化では、禅宗の影響を受けて簡素で気品のある美しさが重んじられました。銀閣と同じ敷地にある東求堂の「同仁齋」は、義政の書齋として使われた場所です。ここには、現代の和室にも共通する畳、障子、床の間といった要素が備わっており、和風建築の原型である「書院造」の初期の遺構として非常に重要です。平安時代の貴族の住居であった寝殿造とは、室内の構造や機能が大きく異なります。